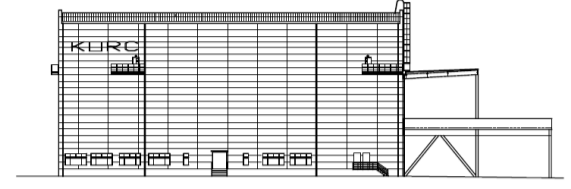


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)KORC名古屋一宮流通センター	階数	地上3階
建設地	愛知県一宮市木曾川町黒田十一ノ通り 65番1他	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	31人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2023年5月 予定	評価の実施日	2022年4月26日
敷地面積	7,865 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社ヒグチアソシエイツ 樋口 久吾
建築面積	3,091 m <sup>2</sup>	確認日	2022年4月27日
延床面積	7,371 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社ヒグチアソシエイツ 樋口 久吾



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.1**

★ ★ ★ ★ ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

★ ★ ★ ★ ★

30%: ★ ★ ★ ★ ★ 60%: ★ ★ ★ ★ ★ 80%: ★ ★ ★ ★ ★ 100%: ★ ★ 100%超: ★

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

#### Q 環境品質

Qのスコア = 2.5

##### Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

##### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

##### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.1

#### LR 環境負荷低減性

LRのスコア = 3.6

##### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

##### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

##### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.9</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>9.1 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.0</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>2.5</b>	
<b>Q1 室内環境</b>										
<b>1 音環境</b>										
1.1	室内騒音レベル			3.0	-	-	-	-	-	
<b>1.2 遮音</b>										
1	開口部遮音性能			-	-	-	-	-	-	
2	界壁遮音性能			-	-	-	-	-	-	
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	-	-	-	-	-	
4	界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-	-	-	-	-	
<b>1.3 吸音</b>										
<b>2 温熱環境</b>										
<b>2.1 室温制御</b>										
1	室温			3.0	-	-	-	-	-	
2	外皮性能			3.0	-	-	-	-	-	
3	ゾーン別制御性			3.0	-	-	-	-	-	
<b>2.2 湿度制御</b>										
<b>2.3 空調方式</b>										
<b>3 光・視環境</b>										
<b>3.1 昼光利用</b>										
1	昼光率			3.0	-	-	-	-	-	
2	方位別開口			-	-	-	-	-	-	
3	昼光利用設備			3.0	-	-	-	-	-	
<b>3.2 グレア対策</b>										
1	昼光制御			5.0	-	-	-	-	-	
<b>3.3 照度</b>										
<b>3.4 照明制御</b>										
<b>4 空気質環境</b>										
<b>4.1 発生源対策</b>										
1	化学汚染物質			3.0	-	-	-	-	-	
<b>4.2 換気</b>										
1	換気量			3.0	-	-	-	-	-	
2	自然換気性能			3.0	-	-	-	-	-	
3	取り入れ外気への配慮			3.0	-	-	-	-	-	
<b>4.3 運用管理</b>										
1	CO <sub>2</sub> の監視			3.0	-	-	-	-	-	
2	喫煙の制御			3.0	-	-	-	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>						0.43			<b>3.2</b>	
<b>1 機能性</b>										
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>										
1	広さ・収納性			3.0	-	-	-	-	-	
2	高度情報通信設備対応			3.0	-	-	-	-	-	
3	バリアフリー計画		独自	3.0	-	-	-	-	-	
<b>1.2 心理性・快適性</b>										
1	広さ感・景観 (天井高)			3.0	-	-	-	-	-	
2	リフレッシュスペース			3.0	-	-	-	-	-	
3	内装計画			3.0	-	-	-	-	-	
<b>1.3 維持管理</b>										
1	維持管理に配慮した設計			3.0	-	-	-	-	-	
2	維持管理用機能の確保			-	-	-	-	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>										
<b>2.1 耐震・免震・制震・制振</b>										
1	耐震性(建物のこわれにくさ)			0.4	3.0	0.48	-	-	-	
2	免震・制震・制振性能			3.0	3.0	0.80	-	-	-	
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>										
1	躯体材料の耐用年数			0.3	2.9	0.33	-	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		②	-	3.0	0.23	-	-	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔			-	2.0	0.23	-	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔			-	2.0	0.09	-	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔			-	3.0	0.08	-	-	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔			-	5.0	0.15	-	-	-	
<b>2.4 信頼性</b>										
1	空調・換気設備			0.1	2.8	0.19	-	-	-	
2	給排水・衛生設備			3.0	3.0	0.20	-	-	-	
3	電気設備			3.0	2.0	0.20	-	-	-	
4	機械・配管支持方法		②	3.0	3.0	0.20	-	-	-	
5	通信・情報設備			3.0	3.0	0.20	-	-	-	

給水:塩ビライン管、給湯・排水管は塩化ビニール管を採用、2種類以上はBを使用、Eは使用不可

3 対応性・更新性			0.4	3.4	0.48	-	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり	階高6.5m>3.9m	-	5.0	0.60	-	-	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	4.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり		壁長さ比率:0.158	3.0	3.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②	-	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.57	-	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出		独自③	-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.0	0.30	-	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=-	3.0	-	-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.13	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI=0.52	3.0	5.0	0.63	-	-	-	5.0
4 効率的運用			0.2	3.0	0.25	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	2.9
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水		大便器、小便器は節水器具、洗面器は自動水栓を採用	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	2.7	0.63	-	-	-	2.7
2.1 材料使用量の削減		② 独自	-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			-	3.0	1.0	0.21	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	3.0	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自	3.0	4.0	0.25	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		-	3.0	0.50	-	-	-	
3	冷媒		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮		①	-	3.9	0.33	-	-	-	3.9
2 地域環境への配慮			0.3	3.4	0.33	-	-	-	3.4
2.1 大気汚染防止		燃焼機器の使用無し	-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	2.7	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減		独自	-	3.0	0.25	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制	独自	-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	-	3.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		-	2.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自	-	3.0	1.00	-	-	-	
2	振動	独自	-	-	-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制		-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制		-	3.0	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		-	3.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30	-	-	-	

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)KORC名古屋一宮流通センター

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.9</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.9	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.0</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:9.1%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>		(評価ポイント)		<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称) K O R C 名古屋一宮流通センター

計画上の配慮事項	
総合	可能な限り緑地を配置し、周辺の景観に配慮した。 倉庫としてゆとりある空間を考慮した。 照明器具にLEDを採用し、消費電力値の低減。
Q1 室内環境	評価対象外
Q2 サービス性能	建物の階高,空間の形状,自由さを考慮しゆとりある空間としている。
Q3 室外環境(敷地内)	植栽による良好な景観形成している。
LR1 エネルギー	LED照明器具の採用。
LR2 資源・マテリアル	節水器具を採用。 再利用ユニットとしてOAユニットを採用。
LR3 敷地外環境	燃焼機器を使用しない。
その他	特になし。